

総研大大学院講演会 「伝説が語るもの」

日時：2023年6月10日（土）13:00～15:00 会場：国立歴史民俗博物館 講堂

「歴博の大学院」である総合研究大学院大学（総研大）先端学術院先端学術専攻 日本歴史研究コースが、教員と修了生による講演会を開催します。ふるってご参加ください。（入場無料、要申込・先着順です）



「演じられている伝説」

佐藤 優 盛岡大学准教授（総研大修了生）

伝説は、民俗研究において口承文芸の中に位置づけられていますが、東北地方では、民俗芸能の演目と密接に関わりながら伝承されています。本報告では、こうした事例を提示し、伝説の伝承実態について考えてみたいと思います。

<プロフィール>

1976年福島県会津若松市生。2003年國學院大學文学部卒。2013年総研大文化科学研究科日本歴史研究専攻修了。博士（文学）。現在、盛岡大学文学部日本文学科准教授。研究分野は、民俗学・伝承文学・寺社縁起研究。

<論文・著書>

「外川仙人堂信仰の展開」（『國學院雑誌』第119巻第6号、國學院大學、2018年）

「民俗学的縁起研究の課題—岩手県内における『日光山縁起』の展開を意識しながら—

（『東北文学の世界』第30号、盛岡大学文学部日本文学会、2022年）

伊藤慎吾・佐藤優・三田加奈編『コンテンツとしての義経』（三弥井書店、2023年刊行予定）



「伝説研究の視点と方法」

小池 淳一 国立歴史民俗博物館／総研大 教授

日常生活のなかで歴史を意識し、ふれようとする時に伝説は大切な糸口になります。民俗学はその出発の時期から伝説を重要な研究対象としてきました。近年はその対象が拡大し、さまざまな方法でアプローチがなされています。それらを参照しながらこれからの伝説研究について考えてみます。

<プロフィール>

長野県南佐久郡に生まれ、東京で育つ。筑波大学大学院博士課程歴史人類学研究科単位取得退学。弘前大学講師、助教授、愛知県立大学助教授を経て、現在、国立歴史民俗博物館教授・総合研究大学院大学教授。博士（文学）。民俗を歴史的な観点を重視しながら調査・分析しています。

<論文・著書>

「〈伝説〉と〈歴史〉」（『岩波講座日本文学史（第17巻）』岩波書店、1997年）

「柳田國男における伝説研究の軌跡」（『日本民俗学』270号、2012年）

『陰陽道の歴史民俗学的研究』角川学芸出版、2011年

*二人の講演の後、司会の小瀬戸恵美（歴博／総研大准教授）を交えて、鼎談を行ないます。